

なんで“青鳥”？

三軒茶屋校舎への移転を前に、校内では物品の整理を進めています。通常、「古いものは廃棄!」となるのが現代の風潮ですが、青鳥ではなかなかそうとはいきません。なぜなら青鳥の歴史は、日本の知的障害教育の歴史だからです。簡単には捨てられない資料が沢山あるのです。資料を読んでみると…。

本校は昭和22年(1947年)に、白金にある文部省教育研究所内に設立されました。当時は“白金自然学園”と呼んでいたそうです。昭和25年(1950年)に東京都に移管され、“都立青鳥中学校”となります。このときはじめて“青鳥”という名前が登場します。古い資料によると、「将来の夢と幸福を実現する教育」という意味から、メーテルリンクの名作“青い鳥”にちなんで“青鳥”と名付けたとのこと。名付け親は大塚晃さんという文部省教育研究所の方です。翌年には現在の光明学園の敷地内に小さな平屋の校舎が建てられますが、その後、昭和32年(1957年)に現在の地に引っ越してきます。このとき、新しい校舎ができ高等部も設置され、“青鳥養護学校”になりました。それまで狭く借り物だった校舎から、初めて広い自分たちの校舎になったことから、“明るい校舎、広いにわ♪”という校歌の歌詞が生まれたのです。ちなみに、平成20年(2008年)に法律改正にともない現在の“青鳥特別支援学校”に改称されています。

青鳥特別支援学校は、自分の歴史に込められた思いをこれからも大切にし、三軒茶屋で新たな教育をスタートさせます。



昭和32年の完成直後の校舎(三宿病院はまだない)



三軒茶屋校舎の建設状況(11/16)
予定通り建設が進んでいます

11月 トピックス



グリーンカフェ西郷山店にて花の植え替え作業をさせていただきました。頼まれた仕事に対して、生徒たちはとても真剣に取り組みました。外部の人から感謝される非常に貴重な体験となりました。